

10. NPO 法人 コーラル沖縄

イベント名	海の観察会
開催日時	3月 9日 13時 ~ 16時
実施内容	<p>親子でサンゴの苗床作り体験会</p> <p>座学でサンゴの生態や人とのかかわり、白化現象やオニヒトデの影響を受けた現状についての説明後、サンゴ飼育水槽に移動して植えつけようサンゴの苗床作りを行いました。</p> <p>支援金は座学の会場費と参加者への飲み物代に使わせて頂きました。</p>
実施状況	<p>当日は海がしけて天候も悪い予報が出ていたので、前日の夕方に参加者へ連絡をしてプログラム中止と代替案への参加確認を行いました。</p> <p>当初団体で予約のあった保育園の参加が無くなり、2組の親子に対してサンゴの苗床づくり体験会を行いました。</p> <p>プログラムが変更となったが参加者には喜んでもらえたと思います。</p>
実施しての所感	<p>参加者の殆どが興味はあっても、身近にある海の自然やサンゴについて知るイベントに参加できたことを喜んでもらえています。</p> <p>活動を続けることで、より多くの人たちに海の環境保全を考えるきっかけを作りたいと感じています。</p>
協議会への要望	引き続き来年も実施できるようよろしくお願いします。



11. 一般社団法人沖縄美ら島財団総合研究センター

イベント名	サンゴ礁自然誌講座「サンゴ礁の磯観察」
開催日時	3月 9日 13時30 ~15:30
実施内容	室内で危険生物や野外での注意事項説明後、野外観察として干潮時のサンゴ礁海岸に出かけ、そこで見られる生き物を観察を行った。
実施状況	天候：曇り時々雨 参加者数：9名（大人6名、こども3名） 参加者の様子：多くの生き物に興味津々の様子でした。 反応：小雨まじりの天候であったが、事故やケガもなく生き物へのふれあいを楽しんでいる様子。時々質問等もあり、好評であった。
実施しての 所感	小雨模様であったが、全員雨合羽を持参していたため、予定時間まで観察会を実施することができた。 事故や怪我もなく、楽しんでもらえた様子。

12. 一般社団法人日本サンゴ礁学会 若手の会

イベント名	沖縄のサンゴ礁研究最前線～カモンベイビーS&G0～
開催日時	3月9日13時 ～ 3月10日17時
実施内容	琉球大学に在籍する大学生・大学院生を始めとする総勢18名によって、①サンゴ礁のジオラマ展示、②石灰岩他展示、③生体サンゴ展示、④ホシズナ展示、⑤ナマコ・ウニ・ウミエラ解説、⑥タッチプール、⑦マイプラ・オニヒトデ解説（ポスター）、⑧「海は生きている」上映、⑨サンゴすごろく・サンゴ礁お絵かき、⑩ニセクロナマコ体験、を行った。
実施状況	2日間で計156名が来場した。客層は、当日博物館を訪れていた親子連れ（1歳～小学生）【5割】・外国人観光客（アメリカ、カナダ、オーストラリア、オランダ、スロベニア、中国）【1割】・地元民【1割】・シニア【1割】・大学生【1割】・関係者【1割】であった。 顕微鏡下で動くサンゴポリプを見て「本当に動物なんだ！」（親子連れ）、「大西洋で増えているミノカサゴをどう思うか？」（アメリカ人）、ナマコ解説を聞き「昔はもっとたくさんいて…」といった感想が聞かれ、またタッチプールでは動くクモヒトデを始めは怖がりながらも徐々に慣れて触れて楽しむ様子が見られた。
実施しての所感	同イベント6回目の開催で、基本的なサンゴ礁を概説するコンテンツが拡充し、実験的なコンテンツまで手が回るようになった。博物館担当者からの来年度実施のリクエスト、美ら島財団関係者からの助成金の申し出、サンゴ礁学会からの全面的な支援、などがこれまでの継続的活動によって得られ、この場を借りて協議会には厚く感謝申し上げたい。また今年の特筆すべき点は外国人観光客の増加で、幸い複数名での英語対応が可能であったが、これまで日本語に特化したコンテンツ製作を進めていたために今後は方針転換が必要である。タッチプールにて沖縄の子供たちと外国人の子供たちが一緒に楽しんでいた姿が印象的だった。
協議会への要望	事前のNHK沖縄での告知を見て来場した客が複数おり、協議会からご紹介頂けたことに感謝申し上げます。実施にあたっては様々な団体の配布資料を預かるが、協議会の資料があれば是非協議会についても宣伝させて頂きたい。協議会HPでDL可能なリーフレットをこちらで印刷してよいか来年度お伺いしたい。もし英語版もご準備可能であればありがたい。
メディアへの掲載	実施後は特になし。実施前に1件あり。 NHK沖縄「おきなわHOTeye」、3月8日



13. 隠れ家カフェ清ちゃん

14. 沖縄県平和創造の森公園

イベント名	山城海岸のサンゴ礁の生き物観察会
開催日時	3月10日13時～ 3月10日16時
実施内容	沖縄県平和創造の森管理棟前に集合し、山城海岸まで徒歩で移動し、海岸の砂や岩、サンゴ礁の生物、サンゴなどの観察と、生き物や生態系についての解説を行った。終了後、アンケートを実施した。
実施状況	<p>参加者：</p> <p>参加者は8名（定員20名）。天候悪化を心配してのキャンセルが1組2名、体調を崩してのキャンセルが1組2名。参加者は、ファミリー2組とシニア1組で、大人5名子供3名となった。シニアの1組は観光客、ほかは地元の参加者であった。</p> <p>状況：</p> <p>開始当初は時折雨が強く降っていたものの、後半は天気が回復。参加者の中には近隣の海岸に遊びに行く機会の多い親子連れもいたが、初めて見る生き物、初めて知ることがとても多いということだった。また参加者同士の交流を楽しんでくれた様子だった。</p>
実施しての所感	子どもたちの反応はすこぶる良く、生き物を見つけては名前を知りたがる一方、大人からも質問が多かった。ガイドを2人にして、親子連れと大人向けの班を作るとより良いかもしれない。また、ごく近隣の地区から参加した親子も大いに楽しんで行ったようで、このような機会を（可能なら参加者負担を低くして）提供することの重要性を再認識した。
協議会への要望	のぼりが活用できなかった。フィールドでのイベント用に、リュックサックなどに挿せるミニのぼりがあると良いかもしれない。缶バッジなども参加者の一体感が出て良いと思う。



15. 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

イベント名	パネル展示「日本最大のサンゴ礁“石西礁湖”を知ろう」
開催日時	平成31年 2月25日 ～ 3月10日
実施内容	日本最大のサンゴ礁である“石西礁湖”には約360種の多様な造礁サンゴが生息しており、私たち人間に恵みをもたらす重要な役割を果たしている。 近年白化現象やオニヒトデの大発生等により、サンゴの被度は減少傾向にあるため、サンゴの生態や攪乱要因等のサンゴに係わる展示を行い、八重山島民や観光客の自然環境保全への意識向上を目的としたパネル展示を開催したものの。
実施状況	観光客や地元民等、石垣港離島ターミナルの利用者に広く啓発を行った。パネル横にアンケートBOXを設置したところ、アンケート回答者は32名。昨年と比べると約20名減少した。 八重山在住者に昔と現在で変わったことを聞くと「人や建物が増えた。それに伴ってゴミが増え、サンゴや魚が減少した。」という回答が多かった。観光客に八重山のイメージを聞くと「海やサンゴがキレイ」というプラスの声と「ゴミが多い、こんなに観光地化されているとは思わなかった」という声もあがっていた。
実施しての所感	離島ターミナルは島民観光客問わず、たくさんの方が利用している場であり、非常にたくさんの人々にパネルを見てもらう良い機会である。 今後もサンゴに係わる普及啓発活動として、継続していきたい。
協議会への要望	八重山でのイベントが少ない気がしました。 離島での周知もしてもらえると嬉しいです。
メディアへの掲載	平成31年2月21日 FMいしがきサンサンラジオ出演 平成31年3月2日 FMいしがきサンサンラジオ出演



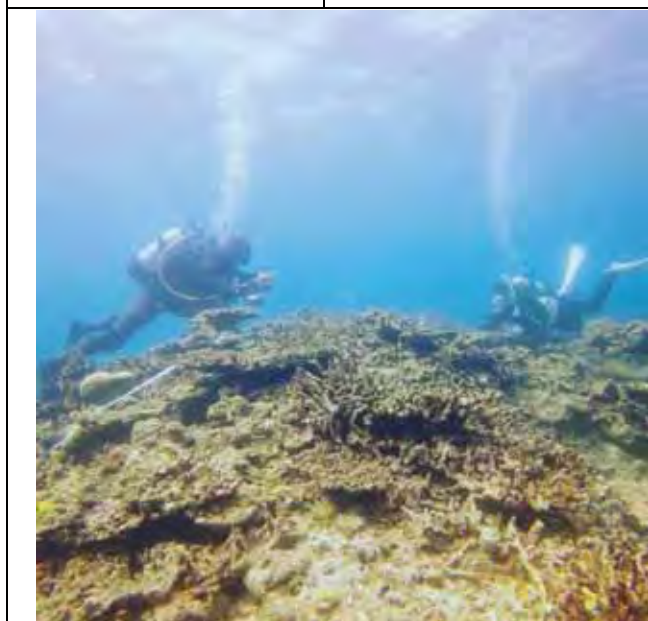
16. しかたに自然案内 + あーまんシアター

イベント名	あーまんシアターとサンゴすごろく in 阿嘉島
開催日時	2019年2月24日(日) 10:00 - 13:00
実施内容	「あーまんシアターとサンゴすごろく in 阿嘉島」 阿嘉島のさんごゆんたく館にて、手作りの海の生き物ぬいぐるみを使った「あーまんシアター」を上演し、その後Tシャツ版サンゴすごろくを実施した。
実施成果	あーまんシアターへの参加者は大人3名、子ども12名の合計15名。阿嘉島・慶留間島のほか、座間味島からも参加者があった。子どもは幼児～小学生で、知っている生き物の名前をどんどん言ってくれるなど、終始積極的にシアターに参加してくれた。 サンゴすごろくは2ゲーム実施し、合計9名の子どもたちが参加した。大人も周囲と一緒にゲームを観戦し、時にコマの進行を手伝ってくれた。
実施しての所感	シアターでは、日頃から海に親しんでいる島の子どもたちならではの海への興味があるように感じられた。 すごろくでは、サンゴの白化のマス目でスタート近くに戻されるプレイヤーが何人か出たが、その場所でのドキドキ感でゲームが盛り上がりとともに、戻されたプレイヤーが繰り返しマス目をたどっていくことで、サンゴにとって厳しい環境や、保全のための活動について、ゲームを通して伝えることができたと思う。
支援金の用途	スタッフ3名の旅費 ※(フェリー往復+環境税4,130円 + 宿泊費7,020円) × 3名 = 33,450円



17. 石垣島ていだダイビングサービス/ダイブステーション ブルミンゴ/コーラル・ネットワーク

イベント名	リーフチェック石垣フサキ沖
開催日時	2019年3月1日 19時 ~ 3月2日 21時
実施内容	<p>3月1日に国際サンゴ礁研究モニタリングセンターにて参加者の事前勉強会を開催し、サンゴ礁の現状およびリーフチェックの調査方法について紹介した。</p> <p>3月2日はフサキ沖の水深3mおよび8mにそれぞれ100mの調査測線を設置し、リーフチェック調査基準法に基づくモニタリングを実施した。また、即日データをまとめ、夜に開催した報告会で結果概要を共有した。</p>
実施状況	<p>3月2日のリーフチェック当日は夜に降った雨が上がり、穏やかな海況の中で開催することができた。参加者は地元から海洋調査従事者1名・ダイビング事業者2名・行政機関勤務者4名、遠方から2名の計9名が参加した。なお、全員が内地出身者であった。</p> <p>調査結果のうち、造礁サンゴの平均被度は3m:16.3%(前年から+6.3%)、8m:29.4%(前年から+1.9%)であった。</p> <p>/</p>
実施しての所感	<p>継続して地域在住の方が主催・参加してくださっており、大変有難いです。その一方で沖縄出身者の参加強化が課題として残りました。今後も2016年の高被度の状態が回復することを願い、モニタリングを継続していきます。</p>



18. 一般社団法人チームけらま

イベント名	国立公園指定5周年記念 「ケラマ諸島4島一斉ビーチクリーン」
開催日時	3月3日 11時30 ~ 3月3日 13:00
実施内容	3/2(土)前夜祭 渡嘉敷島にて開催 3/3(日)ビーチクリーン4島(①渡嘉敷島 サンゴについての座学・ビーチクリーン ②座間味島・阿嘉島・慶留間島ビーチクリーン ③終了後 阿嘉島にて後夜祭) 3/5(火)さんごの日 渡嘉敷島さんごの植え付け体験
実施状況	当日の天候は生憎の雨でしたが、次第に回復、渡嘉敷島は予定通り天気も快晴になり催行、座間味・阿嘉・慶留間は少し待機時間があり30分程ずれ込んでのスタートでしたが、何とか開催できました。 今年の参加状況は座間味・阿嘉・慶留間の高速船が運休にあたってしまい、フェリーのみの運航。その為日帰りだと時間がかかなり制限されるので、渡嘉敷島に集中していました。 参加人数：渡嘉敷島126名 座間味島31名 阿嘉島36名 慶留間島30名 波が高く、風も強かった為、予定していたアクティビティは全てキャンセルになりました。(グラスボート、ホエールウォッチングなど)
実施しての所感	今年は5周年記念のイベントとして、これまで以上に参加呼びかけで盛り上げていく予定が、生憎の天気で参加者は減少。島民の参加にも期待できず残念な数となった。しかし前夜祭、後夜祭は中味も年々濃く、大いに盛り上がった。 今年は協力企業さんの参加が渡嘉敷島に集中。 ケラマの自然の中でゴミ拾いをしながらお友達、家族でワイワイ楽しそうに参加されている様子(正直ゴミの数はそれほど多くはない)主催側も素敵な気持ちになりました。 今後もケラマ諸島の観光振興、環境保全活動、地域振興に繋がるようチームけらまの本来の目的を継続していけたらと考えます。 より多くの方がケラマの自然と、美しい海を好きになり、訪れていただけるよう発信し活動に取り組みたいと思います。
協議会への要望	協賛金やのぼりの提供、広告掲載など告知のご協力を頂き有難うございました。要望としましては、イベント参加者にさんごに関するマメ知識としてクイズに答えてもらい景品をプレゼントしているので、シールや缶バッジのような景品なども希望したいです。
支援金の用途	リーフレット、ポスター制作、参加証明書など
メディアへの掲載	開催前：琉球新報 2月27日 沖縄タイムス 3月1日 終了後：RBCビジョン 3月30日